

宗教哲学会 第16回学術大会

2024年3月23日(土)
京都大学 文学部校舎

研究発表

第1部会(文学部校舎 第4講義室) 10時00分～12時25分

1. 明治後期の宗教哲学の系譜
古荘匡義(龍谷大学)
2. 『マルクスの亡霊たち』から『偽誓と赦し』へ
—赦しのダブルバインドについて
嶺村慧(一橋大学)
3. カントにおける「べきだからできる」ことの宗教的意義
—エディット・シュタインとの対峙を基点として
森良太(上智大学)

第2部会(文学部校舎 第6講義室) 10時50分～12時25分

1. 人間の尊厳と死者の尊厳
—A. グラーンの関係論的尊厳概念を中心に
佐藤啓介(上智大学)
2. 置き去りにされたパレスチナ人たち
—ポストコロニアルの宗教哲学へ
根無一行(京都大学)

第3部会(文学部校舎 第7講義室) 10時50分～12時25分

1. ピエール・ジゼルにおける全体宗教とイエス・キリスト
韓亨模(日本基督教団牧師)
2. 理念と体系：スラヴ派の宗教的寛容論と
フォードロフの宗教統合論
福井祐生(早稲田大学)

シンポジウム 13時45分～17時15分 (文学部校舎 第3講義室)

「宗教と芸術」

1. 四天王寺「聖霊会」の儀礼構造
—日本宗教儀礼における雅楽の役割
小野真龍(関西大学)
2. ゴーガンと仏教 —「久修練行」としての画布
有木宏二(早稲田大学)
3. 「宗教」と「詩作」と「哲学」との関わり合い
—ハイデッガー、ワイトゲンシュタイン、西田の哲学思想を手がかりとして
神尾和寿(流通科学大学)

司会・趣旨説明：杉村 靖彦(京都大学)

会員以外の方も参加料500円でご参加いただけます。